

熊寄せ付けない環境づくり



東京農業大学地域環境科学部
森林総合学科森林生態学研究室

教授 山崎 晃司さん



熊が人の生活圏に現れ、田畑を荒らしたり人を傷つける事件が近年、増えている。ドングリが不作になり食べ物に困るなど、人里に下りてくる理由はさまざまある。熊の生態に詳しい、東京農業大学地域環境科学部森林総合学科森林生態学研究室の山崎晃司教授は、「寄せ付けないことが一番」という。冬眠明けの熊との遭遇を避け、万が一遭遇した際の対処法を教えてください。

身近な場所で遭遇する危険

日本の熊の仲間は2種類、北海道だけに住むヒグマと、本州および四国に住むツキノワグマです。

ヒグマの大きなオスは体重

近年、熊の生活圏が里山にまで広がり、場所によっては数も増えていることが背景にあります。九州と四国を除き、森があるところには、熊がいると考えて行動すべき時代になりました。

2000〜3000キを超えますが、ツキノワグマは大きなオスでも1000キを超える程度です。食べ物は、皆さんの想像と異なり、木の実、若葉、花などの植物質がほとんどを占めます。性質はどちらかというと臆病で、基本的に人を避けて森の中に生活しますが、最近、思わぬ場所に現れて人身事故を起こしています。

冬眠明けの出没に注意



熊の生活圏は近年、里山まで広がってきている

農地に残した作物など 誘引物は徹底除去

接近・侵入の予防にすべき備え

熊も人間と一緒に、楽な生活を好みます。農地やその周辺で廃棄されたり取り残された作物(摘果なども)、庭先の柿やクリ、軒下に置かれたペットフード、コンポストや生ごみ捨て場は、簡単に熊を引きつけて執着させてしまいます。

熊を寄せ付けないために

- 活動期は4〜12月ごろと長い
- 農地の未収穫物や庭先の柿などを放置しない
- 電気柵の設置も効果的
- 熊が身を隠せる茂みなどをなくす

遭遇しやすいポイント
その周辺で払う注意

茂みや下草などは刈り払っておく

熊は誘引物がある場所に、

茂みや下草などを利用して接近してきます。そうした隠れ場所や通路をできるだけ刈り払いましょう。また、集落周辺に出る熊は、人を恐れて緊張状態にあるため、人に突然合つて驚くと簡単にパニックに陥り、事態を悪化させます。

出合ってしまった際は、できるだけ落ちて着いて熊を興奮させないことです。ただし、

とっさの冷静な行動は難しいので、誘引しないことが何より大事です。

熊は冬眠します。そのため、普通は4月頃から11、12月頃が活動時期になり、どの時期にも事故は発生しています。子連れのメスは子を守る防衛行動をするため、特に注意が必要です。

厄介な面もありますが、熊は何十万年もこの日本に生活している、私たちの先輩です。うまく付き合える方法を模索したいものです。